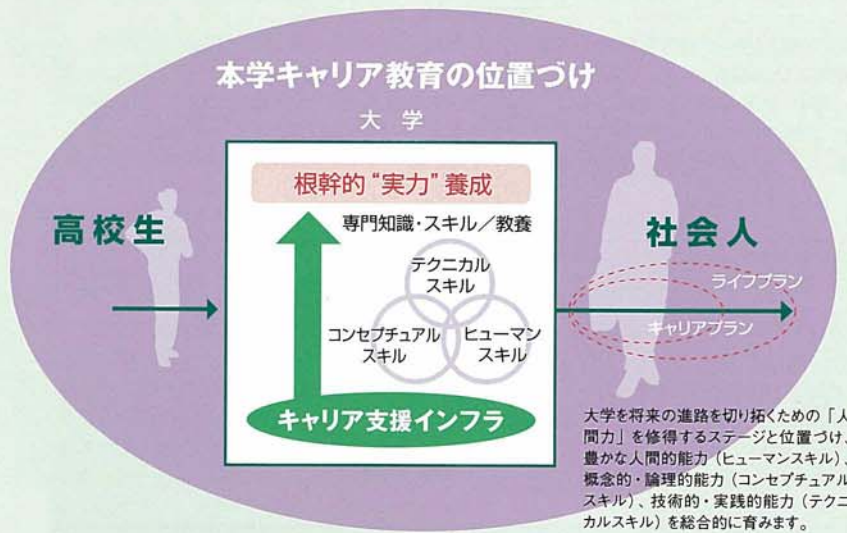


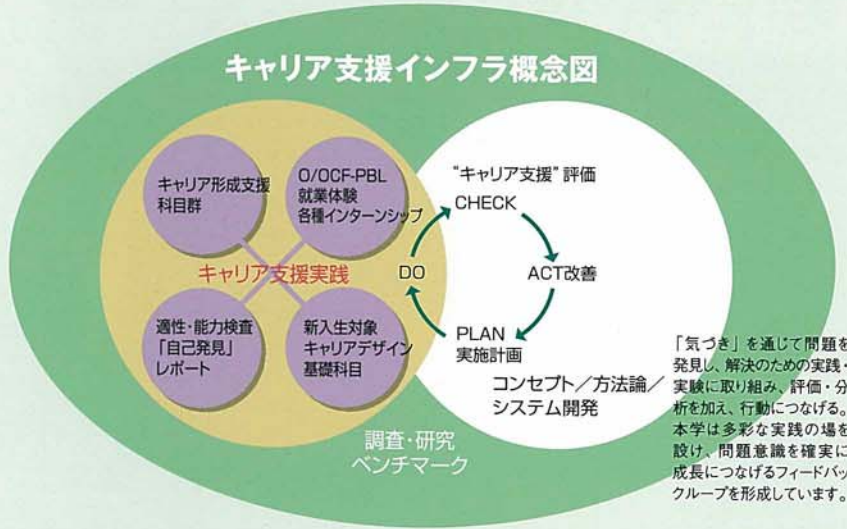
根幹的実力を育む「人づくり」の理念が 京都産業大学のキャリア支援を支えています。

自らの未来を主体的に切り拓く課題解決型の人材へ。

「気づき」をもとに自己を形成していける、画期的なキャリア支援の展開。



京都産業大学のキャリア支援のベースにあるのは、卒業後に社会人として主体的にキャリアを切り開き、幸福な人生を営むために必須となる「根幹的な力」の養成です。就職活動に役立つ一過性のスキルではなく、学生各自の個性に深く根差した人間の能力を磨くこと、また「気づき」をベースにした自己形成の場を提供し、学生たちが各自の多様な夢の実現に邁進していけるよう、充実した環境の整備に全力で取り組んでいます。企業等が抱えるさまざまな課題の解決に学生たちがチームで挑み、社会で求められる力を実践のなかで学んでいけるO/OCF-PBLの取り組みは、本学が進めてきた実践的なキャリア支援の一つの集大成と言えるでしょう。こうしたプログラムは、全国の企業・団体等と連携したインターンシップ・プログラムや多彩な資格取得対策講座、さらに実践的な情報教育、語学教育などと組み合わせて学ぶことで、専門教育とのかかわりも深まり、より一層の教育効果が期待できます。今後はO/OCF-PBLプログラムの受講者数拡大と、取り組み内容のより一層の質的向上を検討しています。O/OCF-PBLで社会に触れて成長した学生たちがキャンパスに化学変化をもたらし、学内のキャリア意識をさらに向上させることも私たちの目的の一つ。本学のキャリア支援の新しいチャレンジに、今後ともご期待ください。



Voice 後藤文彦 O/OCF-PBL担当教員

目に見えて大人になっていく参加学生たち。本当に頼もしい限りです。

新卒社員にも即戦力が期待される時代。学生のうちに社会の現状を知り、自分の力を組織・仕事に活かすのに必要なタフさと術とを身につけておく必要はますます高くなりつつあります。O/OCF-PBLは、そのようなニーズにピッタリと合致する取り組みといえるでしょう。社会で活躍する人と深く関わり、また上級生や下級生と学部横断的に協力しあい、さまざまな人とのつながりのなかで、社会における自分の立ち位置を確認し、自己形成していける——そうした学びが効果的であることは、O/OCF-PBLを受講している学生が目に見えて成長している事実からも明らかです。そしてまた、学生

たちの急速な成長を目の当たりにし、私たち教員やスタッフ間の連携も深まりつつあります。私自身も、学生たちのさらなる成長を促すため、伸びしろを提供するような指導を一層充実させたいと意欲を新たにしています。このように今、プログラムはその名の通り、多様な側面で発展のスパイラルを描いています。

